

平成29年度 江戸川区立松江小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	「かがやき」 力いっぱい笑顔いっぱい松江の子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	目指す学校像 ・考える楽しさ、分ける喜びのもてる学校・地域とともにある姿が見える学校・チーム力が実感できる学校 目指す児童像 ・よく考える子・思いやりのある子・健康な子 目指す教師像 ・指導力と計画力があり、教師としての使命感に燃えたく積極的に協力協働できる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	< 成果 > 140周年という大きな節目にあたり、周年行事に向けた様々な取組により、児童の愛校心や地域を愛する心を育ててきた。問題解決学習や探究的な学習を基盤にして、日々の授業改善に取り組んだ。 < 課題 > 基礎・基本の定着や更なる学力向上が不可欠である。そのために、松江スタンダードを基に、全児童に学習規律を徹底させる。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
			取組指標	成果指標	取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
21世紀にふさわしい教育の推進	学校図書館活用の推進	図書館を活用した授業の充実	読書科における図書資料を活用した調べ学習の充実、司書教諭との連携のとれた読書指導	低学年70冊、中学年50冊、高学年30冊、図書館活用回数...月3回	A	B	読書科において、図書資料による情報収集の時間を確保し、実践できた。読書量に個人差がある。	B	環境がよく整備されている。多くの本に親しんでほしいので音読カードの取組を続けてほしい。	読書科を研究教科とし、各教科や総合との関連について考察していく。
	ICTを活用した授業の推進	ICTを活用した協働学習等の授業の充実	ICTを活用した総合的な学習の時間研究授業...年3回、ICT補習教室、教員ICT研修...年3回	高学年のPCによるプレゼン作成、教職員のデジタル機器の授業利用率向上	B	B	プレゼン資料作成など効果的に活用できた。学校図書館と連動した活用方法の確立が必要。	B	学校公開や防災訓練でPCを活用した発表を目にする機会が増えた。レベルの高さに驚く。	メディアルームとしての機能をより活用する手だてを工夫していく。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	小中連携を踏まえた児童生徒の円滑な接続の充実	陸上指導2回、中学生読み聞かせ1回、教員研修（授業公開）、チャレンジサードリーム3回	授業公開による研修・各校1回以上、地域や先輩との交流の機会...年10回	B	B	授業公開により教員の研修の機会をもった。小中連携プログラム作成により共通理解を図った。	B	小中連携の日の講演でいかに大切かを学んだ。スタンダードは地域にとってもありがたい。	連携プログラムに基づき、指導を工夫していく。必要に応じて改善する。
	オリパラ教育の推進	オリ・パラ教育を踏まえた3つの視点に関する取組の充実	体力向上に向けた全校での取組（力いっぱいタイム）3回、マラソン、なわとびアタック計4週間、生活リズム向上習慣年3回	オリンピックに対する児童の関心の向上、体力調査...江戸川区の平均値を上回る、全校運動遊びの実施	B	B	江戸川区、東京都の体力テストの平均を上回る。ゲストティーチャーを招いて、関心を高めた。オリパラ掲示板の充実が図れた。	B	PTA行事で「ボッチャ」を実施した。プレイパークなど地域を巻き込んだ取組を進めたい。	ボランティア活動を積極的に取り入れる。世界とまだプロジェクトを充実させる。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	補習の実施等による、きめの細かい指導の徹底	補習年間35回の実施、学力アップタイムの計画的な実施、学びのスクールの実施	国学力調査・都学力調査...区平均を上回る、校内独自テストで100点を80%到達	A	B	国学力調査、都学力調査に向けての取組を充実させ、国学力調査では、都の平均を上回った。	B	算数における3学級5展開によるきめ細やかな指導をしていただけののりがあるが、学力調査からも確実に成果が見られる。より定着を図るためには、家庭の力が大きい。地域としても家庭に呼びかけていく。	学力調査に向けての取組を充実させ、結果の考察をいかしていく。学習スタンダードを徹底する。低学年からの学力アップタイムや補習を計画的・組織的にいき、下位層の底上げをさらに図る。
	確かな学力の向上	チャレ問、ベーシック等を活用した国語、算数（数学）、英語の基礎基本の徹底	校内独自テスト・校内独自検定の年2回実施、学びのスクールでのベーシックの積極活用	国学力調査・都学力調査...区平均を上回る	B	B	算数の基礎基本の完全習得を目指して指導し、東京都平均を上回る結果となった。低中学年の学力分析をさらに充実させる。	B		
	運動意欲の向上	休み時間や体育の授業における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	休み時間運動遊び年30回の実施、体力向上に向けた全校取組年3回実施	体力調査において江戸川区の平均値を上回る。運動に対する関心を高める。	A	A	運動遊びを全校一斉に実施し、運動に対する関心を高めた。江戸川区の体力値を上回る。	A	学校改築で一時的に落ち込んだ体力を見事に取り戻してくれた。子供たちの活躍は地域でも鼻が高い。	運動に親しむ機会を一層増やし、特に投力を伸ばす場を工夫する。
相談体制健全育成の充実	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	いじめ調査、Q-Uの実施、いじめに関する道徳での授業回数年3回、エンカレッジルームの活用	不登校児童の減少、いじめの未然防止と登録件数0	A	B	いじめを許さないという全校での徹底した指導により、いじめの未然防止に努めた。エンカレッジルームの活用により、不登校傾向児童の支援を全教職員で行った。	A	いじめを許さない指導、不登校児童への対応を今後も続けてほしい。地域でも多くの目で見守れるように、それぞれの会合などで呼び掛けていく。	障害特性の理解のための研修会を充実させ、Q-Uを活用し、自己肯定感を高める手だてを工夫していく。
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	特別支援学級との交流及び共同学習の充実、研究授業1回、特別支援教育研修の実施	Q-U結果において、満足度群の割合上昇、特別支援（インクルーシブ教育）への十分な理解	B	B	年間を通して、様々な行事で交流及び共同学習を実施した。ユニバーサルデザインを取り入れた授業の計画・実施。特別支援教育研修により、教職員の理解が深まった。	B	わかば学級の児童が全種目で通常学級の児童と一緒にいる運動会は、見ていて気持ちが良い。配慮を要する児童が増えていくと聞く。教員の負担が増えているのではと心配になる。	児童一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援ができるように、教員の指導力向上を図る。
	エンカレッジルームの活用推進	支援を必要とする児童生徒へのエンカレッジルームを活用しての支援の充実	スクールカウンセラーと児童の面談...高学年エンカレッジルームの効果的な活用	全校体制でのエンカレッジルームの活用。配慮を要する児童への基礎学力及び授業意欲向上。	B	B	スクールカウンセラーとの面談により児童理解を深めることにつながり、児童への支援に生かした。全教員でエンカレッジルームを有効活用できた。	A	個別の指導計画の作成や、年2回の保護者との面談の機会を設定してくれ、ありがたい。エンカレッジルームもきれいになった。	特別支援コーディネーターを中心に巡回指導を含むエンカレッジルームの効果的活用を目指す。